

大阪 輸出堅調も供給不安続き様子見ムード

(大阪) 大阪地区の鉄スクラップ市況は依然として膠着状態。関東テnderの好結果が市況を下支えする材料となりつつも、一部荷止めや在庫レベルの高さを受け、供給不安は解消されてこない。同地区電炉のH2実勢値は4万9000～4万9500円(一部上値5万円)、新断バラ同5万500～5万1500円、鋼グライ粉バラ同4万4500～4万5500円見当で推移。

年明け直前からのトルコ向けの上伸展開に加え、鉄鉱石スポット価格も上下動を挟みながらも、足元についてはトン当たり120ドルを超えており、原料市場は持ち直しの動きが見られる。これを追い風に、12日の関東テnderではH2FAS平均5万932円と地区相場を上回る結果となった。日本の向け先依存度が高い韓国市況が今年に入って反落へ転じているほか、地区需要も

停滞感を強めていることで、上伸機運は高まる気配にない。それでも輸出市場の堅調感の浮き彫りを支えに、今後の荷動きが予測しづらいことで、「需給環境に関係なく、しばらく様子見は維持されそう」(ヤード業者筋)という。

一方、全体的な在庫レベルの高さは変わらず、入荷量の多いところでは荷制限を打ち出している。岸和田製鋼による荷止め対応を受け、同社の調達量が多いとされてきたグライ粉については向け先難が深刻さを増すばかりか、上級スクラップについても需要減退が再び目立ち始めていることで、「域外や海外に販路を求めない限り、荷余り感が一段と強まりかねず、足元の需給であれば、値上がりはまず考えにくい」(電炉購買担当者)との見方を強めている。

近畿工業「SHRED CRAWLER」の販売好調

～販売開始から半年間で複数企業と販売契約～

破碎・選別機メーカーの近畿工業(本社=兵庫県神戸市、和田知樹社長)が製作・開発を手掛ける自走式二軸破碎機「SHRED CRAWLER(シュレッドクローラー)」は昨春の発売開始から好調に販売を伸ばしている。様々な現場に持ち運びながら、その場で各種廃棄物の破碎処理が可能な同機は発売開始前から大きな注目を集め、すでに複数の企業と販売契約を済ませている。

同社は黒モーター、雑品スクラップなどの破碎処理に特化したスーパーシュレダーやV-BUSTERを開発し、今もなお金属リサイクル企業向けに着々と受注実績を積み重ねている。また、二軸せん断式破碎機市場において、長くにわたってトップシェアを誇り、OA機器、廃家電製品、廃プラ、木材など幅広い廃棄物を処理対象とした「SHRED KING(シュレッドキング)」は産業廃棄物処理企業、家電リサイクルセンターや市町村の焼却場などで主に導入されている。

災害廃棄物の処理などにも実績を持ち、定評のある

「SHRED KING」は移動式のニーズ性も高かったことを受け、これに応える形で、同機をクローラーに搭載した「SHRED CRAWLER」を昨年から新たにラインナップへと加えている。

大型廃棄物も処理対象とした「SHRED CRAWLER」の破碎機間口は1,500mmとなっており、処理能力についても1時間当たり最大で10トンを有する。トラックに積み込み、解体現場などの発生元で破碎処理を行えるため、廃棄物の減容化や金属スクラップなど廃棄物の嵩比重を高めることができ、運送面での高効率化に寄与する。また、破碎後に磁選機を使用すれば、自社ヤードを経由しなくても、現場から需要家への運搬が可能であり、作業効率の向上も図れる。現場で使用しない場合は自社ヤード内で破碎機として利用し、自走式のため、



工場内での移動が容易な点でも、急なレイアウト変更にも対応が可能だ。

22年春の発売開始から好調な受注が続く、自走式二軸破碎機「SHRED CRAWLER」

昨年4月に販売を開始してすぐに1号機を受注していたが、5月に開催された「NEW環境展」に同機を展示して以降、本格的に営業展開を行い、現時点で複数の産業廃棄物処理企業と受注契約を済ませている。発売開始からわずか半年間での複数企業への販売については、同社にとっても予想を超えるペースとなっており、今後も「SHRED CRAWLER」をはじめ、将来的に大量廃棄が見込まれ、現在も見積もり依頼が後を絶たない使用済み太陽光パネルの処理設備「ReSola(リソラ)」や他のリサイクル機器についても並行して拡販を目指していく。

サヤミツ産業 有限会社

兵庫県姫路市白浜町宇佐崎南2丁目29 TEL (079) 247-2510
FAX (079) 247-2511

ステンレス・製鋼原料・鋳造原料・アルミ・その他各種スクラップ

SAYAMITSU Inc.